

幼児のチアダンス指導の 企画と指導展開時の留意事項の検討

藤田倫子

(公益財団法人ライフスポーツ財団)

Key words : 幼児, チアダンス指導, 留意事項, 内容, 環境づくり

はじめに

近年、幼児期のからだづくりや習い事として、「チアダンス」の需要が高まってきた。ここでは、幼児期のチアダンスを、チアリーディングのスタuntsを含まないアームモーション、ポーズ、キック、ジャンプ、ダンスで構成されたものとして、論を進めていく。

幼児を対象にしているため、指導実践にあたっては、チアダンスの技術のみに特化せず、様々な運動やあそびを取り入れた指導の展開が望ましいと考えており、その考えをベースに、基礎体力や運動能力の育成を視野に入れたチアダンスの指導を行うことが、幼児期のすこやかならだづくりや健康づくりに寄与できると期待している。さらに、指導者や友だちと関わる中で、思いやりや協力、助け合い等、子どもたちの「心の動き」を大切にしていきたい。

そこで、本報では、幼児がチアダンスを好きになり、ふだんの生活の中にも運動を積極的に取り入れ、より健康になっていくための、チアダンス指導の企画や指導上の留意点について、検討し整理しておくことを目的とした。

チアダンス指導の留意事項

1. 企画時

1) ダンス作成時

- ・理解を促すために、複雑なダンスやフォーメーション移動は行わず、腕や脚の動きが左右対称のわかりやすい動きや、からだを上下させたり、まわしたり、回転したりするような様々な方向への動き等を取り入れ、ダンスを構成する。また、フォーメーション移動は、左右や前後移動といった近距離での移動にとどめる。
- ・子どもたちの好む音楽で、フレーズが複雑でないものを使用し、子どもらしい振付にする。
- ・チアリーディングのスタuntsを含まない理由としては、幼児期の発育発達を踏まえるからである。ただし、2人以上の子どもが協力して動きやポーズを作るような、過度な力が関節や筋肉に伝わらないものは、取り入れたい。

2) プログラム作成時

- ・幼児への指導は、幼児期の子どもからだや心の状態を理論的に把握した指導者が行うことを原則としたい。
- ・運動あそびを取り入れるが、4つの基本運動スキル（移動系運動スキル・操作系運動スキル・平衡系運動スキル・非移動系運動スキル）をバランスよく取り入れたプログラム構成を心がけたい。
- ・チアダンスは、子どもの習得スピードにそって進めていく。チアダンスを含めた運動指導のカリキュラムには、年間計画を準備して臨みたい。

2. 指導展開時

1) 指導直前

- ・トイレは開始前に済ませるようにさせ、学習に集中できる環境づくりを整える。

- ・指導者は、からだの動きが子どもによく見えるような服装が必要で、過度な緩みや露出のある服装は身につけない。長い髪は、指導や動きの妨げにならないように、結わせる。
- ・指導者の身だしなみは、子どもに、運動するときに適した服装を示し教える目的もある。子どもも指導者の身だしなみに沿い、指導者からだの動きが良く見えるような服装が必要である。
- ・教室では、方向転換の加わる速い動きを経験するため、安全上、靴をはいて行くことを原則とする。
- ・使用する会場に、指導の妨げになるような（幼児の気を引いたり、安全上問題がある）ものは、開始前に、撤去するか、幼児に対し注意を促す。

2) 指導時

- ・十分な空間を確保し、まわりの人や物に当たらないかを確認する。
- ・動きは、単純なものから難しいものへ少しずつ難易度をあげる配慮が必要である。
- ・言葉遣いは、子どもの興味を引くわかりやすい言葉遣いが必要である。話すときは、子どもの目を見て、話すようにする。
- ・新しい動きや少し難しい動きに挑戦させることで、適度な緊張感をもたせたり、新鮮さをもたせることも必要である。
- ・幼児期に適時性のない動きや難しい動きを、無理にさせることは避ける。
- ・子どもが自ら考え、がんばって挑戦しているときは、励ましの言葉と的確なアドバイスをを行い、子どもの思考を広げたり、動作習得に努めたりする。できなかった場合は、子どもが前向きな気持ちで、新しい動きに取り組めるように促す。なお、どうしたら上手にできるかというアドバイスを行うことも大切だが、時に、子どもに考えさせることも重要である。
- ・見本を見せるときは、大きな動きで、わかりやすく元気に表現することが大切である。また、伸ばすところと曲げるところ等をしっかり示すことが大切である。
- ・子どもがわからない場合は、具体的に子どものからだを動かしたり、触ったりして教えるとわかりやすい。
- ・子どもが一生懸命取り組んだり、上手にできたりした場合は、具体的にその動きをしっかりほめ、教育的な優越感をもたせることも大切である。
- ・チアダンスを覚えたら、リアリーディングの基本にならい、一つひとつの動きの精度を上げていくことが大切である。主に、身体認識力と空間認知能力を高めるような、指導者の働きかけが重要である。また、精度を上げていくことと友だちと合わせて行うような並行した指導が、合わせて大切である。
- ・子どもの心の特徴を踏まえ、飽きないような配慮と、訓練的にならないような指導が必要であり、指導者の人間性や指導力も重要な指導の要素だと考える。

3) 休憩

- ・休憩は適時とするが、子どもの集中力の持続を目的に、子どもの様子を見ながらとるようにする。勝手な行動をしないことや時間を守ることも教室内で指導していききたい。

4) 指導の開始時と終了時

- ・指導開始時には、「あいさつ」を行い、本時の目的を伝え、健康チェックを行った後、準備体操をし、内容に入っていく。また、終了時には、整理体操ののち、子どもたちと本時の内容を確認し、次回の内容と目的を確認し、「あいさつ」で終了する。

5) 教室の行き帰り

- ・幼児期の子どもを守るため、防犯上の留意事項として、チアの練習時の服装（ユニフォーム）ではなく、私服に着替えさせることが望ましい。保護者が同伴しない場合は、特に注意が必要である。

ま と め

幼児を対象にした指導は、周到に計画していても、臨機応変な対応が求められることは言うまでもないが、いろいろな角度から事前に検討をし、準備しておくことは子どもたちの安全を保持していく上でも、また、ねらいを達成させる上でも、必要不可欠なことである。

今後は、いろいろな場面ごとの留意事項を、具体的に検討していききたい。